

平成 29 年度第 2 回熊本市小中一貫教育検討委員会議事録

(平成 29 年 9 月 21 日)

1 開会

10 : 00

2 教育委員会あいさつ

3 議事

熊本市小中一貫教育の在り方について

○ 幼小連携教育モデル校，小中一貫教育モデル校の実践進捗状況説明

・ 碩台小学校

・ 富合中学校

○ 先進校の取組と平成 30 年度以降のスケジュール

○ 質疑，協議

古賀座長	課長のあいさつの中で，平成 31 年度の小中一貫型小学校・中学校の設立を見据えるということを言われた。今回の検討委員会では，そのことを踏まえて，推進のための確実な準備につながるよう様々な立場からの自由闊達な，また建設的な意見をお願いしたい。 碩台幼稚園と小学校，富合小学校と中学校の取組について，質問はないか。
荒木委員	富合中学校で「意図的な班編成」とあったがその点についてもう少し説明をお願いします。
大窪委員	人間関係にも配慮し，それぞれの得意分野をデータ化して班のメンバーが互いに補い合い，うまく機能するように教科ごとに班を編成している。その点について研修する時間が不足しているのが悩みである。
古賀座長	数字を出せるような取り組みを進めて行くことも，これからの鍵となる。
大窪委員	教科を限ってでもいいのだが，兼務の発令については，小学校の職員も含めて職員の意識が変わってくると思う。富合は長年小中一貫教育が行われてきているので，職員の行き来は当たり前という雰囲気はあるが，これから他校で小中一貫を進めていくためには兼務発令によってマネジメントのやり易さが変わってくると思う。異動について小学校は教科に関係ないが，中学校の場合は免許教科の兼ね合いがある。これまで教科配置の困り感があった部分で，中学校だけでなく小学校でも指導できるような配置にするとその困り感も解消されるのではないかな。前任校の事例を考えても先生方の意識を変えるところが一番大きいので，兼務の発令は一つの手段ではないかと思う。

平成 29 年度第 2 回熊本市小中一貫教育検討委員会議事録

(平成 29 年 9 月 21 日)

古賀座長	全国的な調査結果をみると、定期人事交流の方針の中に小中一貫教育の推進を盛り込んでいるところが 3 分の 2 ほどある。そういった意味では制度的にも可能な取組であろう。教育委員会でも検討が必要なところである。 平成 30 年度の幼小中連携の組み合わせ表を見て、意見はないか。
長尾委員	中央区の出水南中の部分であるが、託麻中の生徒増加の解消のために、田迎南小校区が緩衝区になるということなので、修正が必要であろう。
古賀座長	3 番目、4 番目の実践校を今後どのように広げていくのが課題だが、例えば既に外国語で連携が進んでいる楠校区など、ある程度連携が進んでいるところ取り組みやすいであろうし、連携によってこんな良さがあるという事例を示すこともできるだろう。
長尾委員	小中の連携と幼小の連携の実践発表をお聞きして、幼小中 3 つの連携が必要なところは少し大変なのではないかと感じたが、いかがか。
古賀座長	その点については事務局からの提案にあった、「連携の軸」の一例に、「生活科・総合的な学習の時間の一貫した指導」とあり、これが着眼点となるだろう。幼児教育と生活科との結び付きが強い点と、これまでも総合的な学習の時間にはすでにカリキュラムマネジメントの発想で取り組まれているという点から考えると、小中一貫と幼小中連携をワンセットで進めることで、大がかりな取組ということではなく相互作用として、これからの学習指導要領に沿った取組が期待できるものと考えている。個別の学校でしっかり計画を立てて実践を披露していただき、それに対して具体的に教育委員会がサポートしていく体制が整えられればよいと思う。
長尾委員	将来的には幼小中がつながっていくと思うが、先生たちが不安に思うのは先の姿が見えないことである。例示があると少しずつ進んでいくのではないかと思う。
古賀座長	小中一貫の進め方については、2 つの課題がある。1 つはシステムの課題で、一つの小学校から複数の中学校に行く場合等である。もう 1 つはカリキュラムの課題である。「学びのカリキュラム」と「育ちのカリキュラム」があり、昨年の江南校区の取組では「育ちのカリキュラム」が示された。今年 3 月に告示された幼稚園教育要領の中に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として 10 の姿が示された。小学校の修了時や中学校

平成 29 年度第 2 回熊本市小中一貫教育検討委員会議事録

(平成 29 年 9 月 21 日)

大窪委員	の修了時はどうかと考えるとき、これは、育ちのステップとして大変参考になる例示だと考えている。 今回は、委員会からの説明で大筋は了承していただけるかという議論であるが、他にないか。 芳野小、中の例で考えると、これまでやってきた「幼小中連携の日」等とはレベルの違う取組になるのではないかと思います。そのような意味で、何をどのように進めたらよいかについてのサポートが大切になってくると思う。富合中学校区ではロードマップを作っているが、それを各学校で作るのも大変であろう。向かっていく方向性と具体的な中身がないと、取り組みづらいのではないか。富合中学校区では教育懇話会があり、地区内の私立も含めた幼稚園、保育園も入ってもらって、小、中学校全部で話し合う会が年に 2 回ある。学校が困っている課題を地域に発信して一緒に取り組んでいる。そのように地域も一緒に取り組むシステムが必要かと思う。
荒木委員	本校区では、家庭も含めて地域の方の意見を取り入れ、中学校 3 年生の姿をゴールとしたカリキュラムを作った。先日も地域の方と話した時、食事に困っている保護者に視点を当てた方が良いという意見が出た。それは幼小中連携教育の部分で取り組んで行きたいと話したが、そのように地域の教育力が活かせる仕組みがあるところはどんどん活かしていくとよいと思う。しかし地域差があるのも事実であり、市全体で見たときの課題である。
古賀座長	本日の配付資料にもあるように、小中一貫教育ということで発達段階に沿った具体的な姿の例示があると、保護者にとっても見通しをもった子育てや不安感の解消につながる。
志波委員	資料にある「家庭学習の 9 年間の取組」については、大変参考になるので来年度の取組に生かしていきたいと感じた。職員の意識を高めることが必要なので、メリットをどんどんアピールしていくことは必要だと思う。小学校では外国語の教育に対する困り感があり、富合小・中の実践例が参考になる。子どもの姿を共有して育てることは、小中のどちらにもよさがあるので軸をしっかりと決めて取り組むことが大切だと思う。 地域と家庭の理解も大切だと思う。ただ、地域は小学校への思いが強いく、1 小 1 中の所はよいがそうでないところは地域に十分な説明が必要だと思う。30 年度のモデル校の候補については、行き来が難しいところもあるが適当だと思う。

平成 29 年度第 2 回熊本市小中一貫教育検討委員会議事録

(平成 29 年 9 月 21 日)

上野委員	校区がまたがった場合の地域の方とのやり取りの難しさを感じたことがある。丁寧に話をすることで解決をしたが、そのような難しさはあると思う。話はずれるかもしれないが、碩台小学校と碩台幼稚園の交流はとても良いと感じた。自分の高校生の子どもの話になるが、赤ちゃんとの交流の体験があったということで、学力以外の学びがあると話していた。職場体験では先輩たちと一緒に営業に回り大きな学びがあったようだ。そのように交流はとても有意義なので必要な体験だと思う。
磯田委員	30 年度のモデル校の件だが、出水南中は大多数が画図小の子どもが通い、一部が出水南小の子どもである。出水南小の多くの子どもは、出水中に通う。区をまたがるという問題も含んでいるのだが、少数派の子どもたちが通う場合のことを考えると、システム的なことの指導としてもものさしのようなものが事務局から示されるとよいのではないかと感じた。
古賀座長	今回の会は冒頭に話したように、平成 30 年度から可能な限り着手していく方向で議論していただいた。具体的な組み合わせ表が示され、最終決定は教育委員会の中でなされることであるが、この会では了承していただいたということと、委員から出されたように、丁寧な説明が必要であることと、メリットをしっかりと示すという 2 点について要望が出されたということで整理をする。
塩津課長	建設的なご意見を活発に出していただきありがとうございました。次につなげていき、3 月の会で報告をする。